

住吉台小

地域住民らの支えに感謝



これがイチオシ

「けやきまつり」で笑顔

住吉台小学校で毎年楽しみにしているのが、児童会行事の「けやきまつり」です。3年生以上の各クラスがお化け屋敷や射的などのお店を出し、全校のみんなを楽しませます。

「小さなやさしさ、大きなしあわせ」とのスローガンの下、上級生と下級生が交流を深め、友達と協力して仕事を進める大切さを学びます。話し合いやお店を出す準備は大変ですが、とてもやりがいがあります。みんなが笑顔になれる自慢のイベントです。今年はどんなお店が出るのか楽しみです。

学校名 仙台市立住吉台小学校
所在地 仙台市泉区住吉台西4の1の1
創立 1988年
電話 022(379)3835
校長 石川 由紀
児童数 337人

住吉台小学校には、紹介しきれないほどのボランティアの方々がいます。毎日の登下校を見守ってくれる「防犯ボランティア」や、すてきな本を読んでもくれる「読み聞かせボランティア」、放課後子ども教室にいる「住吉だいっ子」、1年生を助けてくれる「エプロン先生」ら地域の人たちにも温かく支えられています。

他にも6年生の総合学習では、地域の人たちの生き方や仕事への思いを学んだり、3年生は伝統的な学校をつくっていききたいと思っています。



ボランティア紹介の会で感謝を伝える住吉台小の児童ら

編集委員 熱海晴香、石黒義人、坂本咲希、菅原秀紀、植田粹人、大泉陽菜乃、菅原翔大、菅原光温(6年) 指導教員 濱塚直樹、二本柳愛

ボランティア紹介の会

わが校わがまち スクール通信



今回は
東船岡小(柴田町)
松森小(仙台市)

芝生で遊んでたっぷり汗

米山東小

平筒沼へひいらぎ遠足

米山東小学校では、地域にある桜で有名な観光名所、平筒沼まで歩く「ひいらぎ遠足」があります。毎年秋に全校児童が六つの班に分かれ、リーダーの6年生を中心に、約2kmの道のりを歩いて往復します。

平筒沼には芝生の公園があり、班ごとに考えた遊びをします。鬼ごっこや宝探しなど全員が楽しめる遊びを6年生が考えます。時間はたっぷり1時間以上あるので、汗をいっぱいかいて大満足するまで遊びます。

昼は平筒沼が見渡せる眺めのいい広場でお弁当を食べます。班の全員が輪になって食べるお弁当は最高においしいです。帰り道、低学年の子が歩き疲れてしまった時は、高学年が励ましてゴールの学校を目指します。

このほかに「キラキラカード」という取り組みもあり、全校の友達の良いところや頑張っているところなどをカードに書き、校舎内に掲示しています。これからも自分のクラスだけでなく、全校のみんなが楽しく過ごせる学校を目指して頑張ります。



学年の垣根を越えて交流を深め合う「ひいらぎ遠足」

編集委員 山内梨奈、大和田菜央、阿部咲和、伊藤煌誠、伊藤結月(6年) 佐々木花音、氏家花楓、佐藤湊空(5年) 指導教員 鮎澤誠、狩野あゆみ



これがイチオシ

民謡3曲を2年間練習

米山東小学校では3、4年生が総合的な学習の時間に民謡を習っています。地元の衣川喜仁さんと山内英喜さんが指導します。衣川さんの三味線と山内さんの尺八に合わせ「田ならし唄」「豊年こいこい節」「もちつき唄」の3曲を歌います。歌詞に込められた先人の思いなども教えてもらいます。

指導の機会は年間10回。2年間練習するので、とても上手に歌えるようになります。学習発表会や地域の祭りなどで披露し、いつも会場の皆さんから大きな拍手をもらっています。

学校名 登米市立米山東小学校
所在地 登米市米山町桜岡鈴根1
創立 2009年
電話 0225(55)2042
校長 伊藤 悦子
児童数 90人

大島小(児童30人)の子どもたちや地域住民が招待され、観光拠点の誕生を祝った。

式典で菅原茂市長は「多くの人の努力があつて完成できた。訪れた人たちをおもてなすことができる地域と力を合わせていきたい」とあいさつ。テープカットをし、開業を祝った。

モノレールに乗り、山頂のテラスに到着した参加者から

気仙沼・大島に観光拠点
亀山テラスとモノレール開業

亀山山頂からの眺めを楽しみながら、テラスでアイスを楽しむ子どもたち

気仙沼市の大島・亀山(235m)に7月19日開業する「亀山テラス 360° Keenuma On.」とモノレールの開業セレモニーが18日、現地であった。

大島小(児童30人)の子どもたちや地域住民が招待され、観光拠点の誕生を祝った。

式典で菅原茂市長は「多くの人の努力があつて完成できた。訪れた人たちをおもてなすことができる地域と力を合わせていきたい」とあいさつ。テープカットをし、開業を祝った。

モノレールに乗り、山頂のテラスに到着した参加者から

雨ふる本屋

日向理恵子 作
吉田 尚令 絵
童心社



未完成の物語 雨で育てる

かたつむりを追いかけて迷い込んだのは、雨が降る不思議な本屋でした。主人公のルウ子は、お母さんがいつも妹に付きっきりでモヤモヤ。今日もどんよりとした気持ちのまま、おつかい帰りに図書館で雨宿りをしていました。

ところが、いつの間にか見たことのない本棚に囲まれてしまいました。かたつむりに誘われて、たどり着いたのは「雨ふる本屋」。本屋なのに雨が降り続けているそこには、ドードー鳥の

店主と妖精使いの助手が。この本屋は、未完成の物語を雨で育てて本にするのですが、近頃、面白い本を作ることができなくなっていました。困り果てた店主たちはルウ子に協力を依頼します。

果たしてルウ子は本屋の抱える問題を解決し、家に帰ることができるのでしょうか。みなさんも、ルウ子と一緒に本を巡る冒険に出かけてみませんか？ 小学校中学年から。(宮城県図書館 鈴木柚花)

